

令和6年度千代田区立図書館運営に対する評価結果

令和7年度の千代田区図書館評議会(参考資料①～③参照)では、令和6年度の図書館運営評価に際して、「図書館評価シート」を活用して図書館運営全般について評価を行いました。

■令和6年度千代田区立図書館運営の評価方法

区立図書館業務計画書に記載された千代田区立図書館の5つのコンセプトに基づき、図書館運営の状況について、「図書館評価シート」を活用して評価を行います。

評価の結果は「千代田区立図書館運営評価」としてまとめ、区ホームページ等で公表するとともに、図書館運営の改善に役立てます。

【1】評価の視点

令和6年度は、図書館運営が安定した状況であったため、令和5年度と同様に、①実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員の評価の3つの視点から各取り組みを評価します。

【2】評価の流れ

千代田区図書館評議会にて、評価に用いる指標を決定

↓

①指標別の実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員による評価を行う

↓

コンセプト別に総合評価を行う

【3】評価基準

(1) 実績評価の評価基準

ア. 指標別評価

各取り組みを明確に評価できるように、指標ごとに目標達成率を用いて評価を行います。目標達成率の値に応じて達成度を3～0の4段階で評価します。

$$\text{目標達成率(\%)} = (\text{評価年度実績値} \div \text{目標値または前年度実績}) \times 100$$

評価基準	目標達成率	指標別評価
目標を達成した・目標以上の成果	100%以上	3
目標をほぼ達成した	100%未満 80%以上	2
目標をあまり達成できなかった	80%未満 60%以上	1
目標を達成できなかった	60%未満	0

イ. 実績評価

指標別評価の平均値に基づいて、a～d の4段階で評価します。

評価基準	指標別評価の平均値	評価(評価点)
目標を達成した・目標以上の成果	2.7 以上	a (3)
目標をほぼ達成した	2.7 未満 2.0 以上	b (2)
目標をあまり達成できなかった	2.0 未満 1.0 以上	c (1)
目標を達成できなかった	1.0 未満	d (0)

(2) 指定管理者による自己評価基準

実績評価の結果を基に、指定管理者が自己評価を行います。評価シートに実績や業務の改善点を記入するとともに、以下の評価基準に基づいて4段階で評価を行います。

評価基準	評価(評価点)
図書館として、優れた管理運営がなされている	a (3)
図書館として、適切な管理運営がなされている	b (2)
図書館として、やや不適切な管理運営がなされている	c (1)
図書館として、不適切な管理運営がなされている	d (0)

(3) 評議会委員の評価基準

評価シートに記載している①実績評価および②指定管理者による自己評価の結果を基に、評議会委員による評価を行います。

指定管理者の自己評価と同様の基準に沿って、4段階で評価を行うとともに、自由記述欄には実績や指定管理者の実施状況等に対する意見と、次年度に向けた改善点・提案等を記入します。

(4) 総合評価基準

①実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員の評価の結果を基に総合評価を行います。評価に際しては、評価点の平均値に基づいて、4段階で評価します。

評価点の平均値	総合評価
2.6 以上	A
2.6 未満 2.0 以上	B
2.0 未満 1.0 以上	C
1.0 未満	D

千代田区図書館評議会 令和6年度図書館運営に対する評価シート 総合評価一覧表

評価項目	取り組み項目	評価の視点	評価	総合評価
ゲ① 千代田区 図書館 評価	1 区立図書館ホームページ・SNS等による広報活動 2 地域情報の収集・提供 3 区立図書館情報誌の発行 4 区の歴史・文化・芸術などに関する様々なテーマのセミナー・イベント、展示等の開催 5 本の街神保町や区内の大学・文化施設等との連携	実績評価	b	B
		指定管理者自己評価	b	
		評議会委員の評価	b	
オ② セカイ 図書館 評価	1 ビジネス関連資料の整備 2 ビジネスパーソンをターゲットにしたイベント等の開催 3 商用オンラインデータベース提供 4 電源付閲覧席・インターネット利用環境等の整備 5 貸室の提供による交流支援	実績評価	b	B
		指定管理者自己評価	b	
		評議会委員の評価	b	
③ 区民の 読書 評価	1 資料の収集・管理 2 中高生向け資料の収集、読書環境の整備 3 レファレンスサービス・読書相談の受付（資料探しのお手伝い） 4 障害者サービス(郵送貸出、拡大読書器の設置等)の提供 5 電子書籍、音楽配信サービス等デジタルコンテンツの提供	実績評価	b	B
		指定管理者自己評価	b	
		評議会委員の評価	b	
す④ くすり 図書館 イベント 評価	1 古書販売目録、内務省委託本、一橋・駿河台図書館業務資料、内田嘉吉文庫等の活用 2 特別研究室の利用促進 3 特別展・特別展開連イベントの実施 4 一般図書展示	実績評価	b	B
		指定管理者自己評価	b	
		評議会委員の評価	b	
フ⑤ ファミリー ミドリ 評価	1 子どもと大人の読書環境の整備 2 児童図書展示等による読書振興 3 おはなし会、子ども・親子向けイベント等の実施 4 子ども読書調査の実施 5 学校等支援事業	実績評価	b	B
		指定管理者自己評価	b	
		評議会委員の評価	b	
⑥ 管理 運営 等 評価	1 利用者サービスの質的向上 2 職員の各種スキル向上・人材育成 3 利用環境の整備、施設維持管理業務 4 レストラン・カフェ＆ショップの運営 5 その他総務	実績評価	a	A
		指定管理者自己評価	a	
		評議会委員の評価	a	

千代田区図書館評議会 令和6年度図書館運営に対する評価シート

評価項目	① 千代田ゲートウェイ	総合評価	B
------	-------------	------	---

【コンセプト】

- * コンシェルジュや展示などを通して千代田区の地域情報を発信
- * 千代田区の地域産業である“出版”に関する情報を発信
- * 本の街・神保町と連携し、書籍の入手をサポート

【取り組み項目】

- 1 区立図書館ホームページ・SNS等による広報活動
- 2 地域情報の収集・提供
- 3 区立図書館情報誌の発行
- 4 区の歴史・文化・芸術などに関する様々なテーマのセミナー・イベント、展示等の開催
- 5 本の街神保町や区内の大学・文化施設等との連携

▶ 数値実績に特殊な事情があり評価に影響した場合は、備考欄に「※」印を記入し、自己評価欄に状況を記入してください。

指標			元年度 実績	5年度 実績	6年度 目標値	6年度 実績	6年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考
1	ニュースリリースの発信回数	千代田	10	9	12	10	83.3	2	
		日比谷	26	27	20	14	70.0	1	
	取材対応件数	千代田	26	13	20	11	55.0	0	
		日比谷	93	75	80	86	107.5	3	
	メディア露出件数	千代田	107	43	60	25	41.7	0	
		日比谷	160	138	130	99	76.2	1	
	ホームページアクセス回数	共通	1,827,640	1,649,416	1,700,000	1,667,947	98.1	2	
	Facebook・X・LINEなどSNSでの情報発信回数	千代田	110	153	170	148	87.1	2	
		日比谷	179	573	500	483	96.6	2	
	メールマガジンの配信回数 (区内教育施設等への配信を除く)	千代田	13	12	12	3	25.0	0	
		日比谷	12	12	12	12	100.0	3	
メールマガジン登録者数（3月時点）			2,604	2,131	2,000	2,195	109.8	3	
2	図書館内での区内情報発信回数 (SNS等による発信を除く)	千代田	10	10	12	14	116.7	3	
		日比谷	21	38	36	43	119.4	3	
3	図書館情報誌・広報誌の発行回数	千代田	4	4	4	4	100.0	3	
		日比谷	12	12	12	11	91.7	2	
4	企画展示（ウォール展示）回数	千代田	4	5	4	4	100.0	3	
	企画展示資料貸出数	千代田	2,407	1,749	2,500	2,917	116.7	3	
	企画展示関連セミナー・イベント回数	千代田	1	1	1	1	100.0	3	
5	区内関係施設（区内大学、博物館等）との連携 企画数	千代田	6	14	8	15	187.5	3	
		日比谷	4	8	6	11	183.3	3	
	地域産業との連携企画数	千代田	11	8	6	9	150.0	3	

指標別評価平均	2.2
実績評価	b

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	b
令和6年度「千代田ゲートウェイ」の中で重視した内容・アピールポイント			
①多様な媒体でターゲットを意識した情報発信を行う(特にYouTubeの発信に注力) ②外部との連携を深める			
上記の実施状況			
①YouTube再生数の大幅増 ②「図書館だより」「ポモーヌ」の刷新 ③外部連携の深化			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	b	情報発信の基本を、「発信回数＝情報拡散」から、「情報の正確性」「コンテンツのクオリティ」「ターゲットへの訴求力」を重視する方向に転換しています。効果の薄い発信をむやみに繰り返さず効率的にまとめて発信することで、諸項目の回数・件数は減少しています。ただしその結果として、YouTubeの視聴回数は従来の10倍である3,000回を実現しました。取材対応件数は取材者の意向でその時々での対処となるか否かに左右されます。	
2	a	区内情報発信回数は、千代田、日比谷ともに目標を上回りました。地域情報の揭示・提供を積極的に行った結果であり、今後も地域団体との連携を深め、タイムリーな情報提供に努めます。日比谷のエントランスの展示は、季節に合わせた公園情報や近隣情報を発信しました。図書フロアや文化財との連携展示は、記念に撮影される利用者も見受けられました。	
3	b	千代田の「図書館だより」は2025年冬号（2025年2月発行、季刊）、日比谷の「ポモーヌ」は2月号（2025年1月発行、隔月）に、ともにリニューアルしました。「図書館だより」は、展示やイベントの情報をカレンダー形式で見やすく提供し、「ポモーヌ」は、館内や近隣のイベントにあわせたインタビュー記事を掲載しています。	
4	a	企画展示資料貸出数は、JPIC（出版文化産業振興財団）にご協力いただいた「マンガから始めよう マンガ感想文コンクール」：805冊、東京歯科大学に情報提供いただいた「東京歯科大学 推しの99冊」：919冊と、これまでの各展示を上回る数字を記録しました。数値的には満足な結果ですが、「読書振興」という本来的な目標とは別だとも考えています。	
5	a	区内関係施設との関係は、美術館については定期的な情報交換を継続し、大学とは年々連携密度が高くなって連携企画数が上昇傾向にあります。さらに公的機関とも定期的な連携を継続しています。出版社・書店・古書店とは、企画展示だけでなく、情報交換や出版文化や図書館のあり方に関わる課題の意見交換も行っています。	
評価項目全体の自己評価		区内のさまざまな情報を時流に即した手法や媒体を選択しながら、高い質を持って、効果的な情報発信を行うよう心がけました。YouTubeでは再生回数が大きく伸び、Xでも近隣情報を交えた発信によりフォロワー増につながるなど、発信の質と到達範囲の両面で成果を上げています。紙媒体も「図書館だより」や「ポモーヌ」のリニューアルを行い、外部連携による展示では貸出数の増加など具体的な成果も得られました。しかし、将来に向けて図書館のあるべき役割をどこまで果たしているのかは未知数です。閉鎖的な環境に陥ることなく、常に社会環境やその動向を注視しながら、新たな役割を見出していきたいと考えています。	

〈評議会委員の評価〉	b
▶情報発信の基本を「発信回数」から見直し、効果が上がっていることは大変評価できる。ただし、見直すのであれば目標値設定の段階から検討し、反映させたほうが良かったのではないかと。特に「メールマガジンの配信回数」は大幅に減ったことから、指標別評価に適切に反映されない形となってしまっている。この効果を持続させていくために、SNSでの情報発信は、今後は回数ではなくアクセス数を目標値にしていくほうが望ましい。 同様に「取材対応件数」「メディア露出件数」も目標値を大きく下回っているが、この指標の意義は再考してはいかか。目標値を必ずしも前年比で増加させなくてもよい。依頼がありそれに対応することが基本であれば、取り組み方で増加させる余地があまりない。 ▶指定管理者の自己評価にあるように情報発信の回数だけでなく、質的な向上を意識されていて、十分目標は達成されている。YouTubeは、私もよく視聴しているが、多くの人を惹きつける魅力的な内容となっている。今後も、この方向性は大事である。 ▶千代田区の魅力や文化を発信する「千代田ゲートウェイ」については、YouTubeやSNSなどの活用によって広く情報が届けられ、特にフォロワー数や再生回数の増加が顕著であった点は高く評価できる。単なる情報量ではなく、質の高い発信や的確なターゲット層へのアプローチが成果につながっていることが確認できた。また、外部機関との連携展示が利用者の関心と呼び、貸出数の増加にも結びついている点は、図書館の新たな可能性を示している。 一方で、発信回数自体は減少傾向にあるが、その分、発信の「質」と「内容の深まり」に重きが置かれていることから、意義のある転換と受け止める。今後も、メディアの特性を踏まえた戦略的な広報を続けることで、千代田区の特徴をさらに効果的に伝えていくことを期待する。 ▶1.の広報活動については、いくつか目標未達の項目があるが、人材不足が主な要因との事なので、今の世の中の状況であれば仕方がない部分もある。足りない分をコンテンツのクオリティによりカバーしたところは評価できるポイントである。 YouTubeを使った動画の配信により視聴回数が3000回超となったことは注目すべき点である。またYouTubeのコンテンツも神保町の名物書店の紹介など千代田区らしい内容で興味を持った。 ▶千代田図書館の「コンシェルジュによる神保町の街歩き」や「YouTubeでの古書店インタビュー」等、本の街・神保町との地道な連携に手間暇惜しまず取り組んでいる点は高く評価できる。古書会館の見学ツアーにも参加してみたが、地元の産業を理解する上でも大変有意義なものであった。また日比谷図書文化館の「ボモヌ」の隔月刊化は残念だが、誌面は読みやすくなった。頻繁な情報更新はサイトにまかせ、紙ならではの読ませ方の工夫が行われている。 ▶適切な情報手段や媒体を選び、効果的な情報発信が行われている点は大きく評価できる。また、区内の類縁機関や大学等との連携による情報交換や展示も、積極的に行われていて、評価できる。今後の取り組みにも期待している。 ▶1について、情報発信の基本を「発信回数＝情報拡散」から、「情報の正確性」「コンテンツのクオリティ」「ターゲットへの訴求力」を重視する方向に転換したことについて、個人的にはよいことである。ただし、特に「コンテンツのクオリティ」「ターゲットへの訴求力」に対する分析や、それらの反映、さらに評価にはある程度の時間がかかると考える。今後の動向を楽しみにしている。 千代田の「取材対応件数」や「メディア露出件数」が昨年度の実績より減少し、指標別評価が「0」となっているのは、自己評価にも書いてあったように取材者の意向によるところが大きい。今後SNSでの情報発信の影響で取材を申し込まれる可能性も考えられるので、単年で考えるよりもう少し長い目で見ていく必要がある。 「メールマガジンの配信回数」が昨年度に比べて大幅に減っているが、一方で「メールマガジン登録者数」は昨年度より増えている。引き続き「どうい情報を、何をを使って発信していくのか、誰に向けて発信していくか」を意識してもらいたい。 5について、「区内関係施設との連携企画数」「地域産業との連携企画数」とともに昨年度の実績を上回った点を評価したい。今後もさまざまな連携企画が行われることを期待している。 ▶1.令和6年度の本評議会を受けて、情報発信の基本を回数より質を重視した方針は大変評価できる。YouTubeでの配信も、内容を重視したことで3000回を実現するに至ったものと推察する。引き続き質を重視し、注目を集める配信を生み出してもらいたい。 5.区内関係施設との連携や地域産業との定期的な情報交換については、もう一歩かなという印象を受けた。既につながりのある古書店や、その他既存のルートに限定されているのではないかと。全体的に、再生回数の上昇やフォロワーの増など、結果につながっていて、評価シートもきちんと数字から分析が行われていると評価し、期待を込めてa寄りのbとする。	

千代田区図書館評議会 令和6年度図書館運営に対する評価シート

評価項目	② ビジネスを発想するセカンドオフィス	総合評価	B
------	---------------------	------	---

【コンセプト】	【取り組み項目】
---------	----------

- *ビジネスの発想を育てる資料を整備
- *セミナーや講演会によるビジネス支援
- *情報収集しやすい利用環境の整備
- *貸室運営による交流活動の促進

- 1 ビジネス関連資料の整備
- 2 ビジネスパーソンをターゲットにしたイベント等の開催
- 3 商用オンラインデータベース提供
- 4 電源付閲覧席・インターネット利用環境等の整備
- 5 貸室の提供による交流支援

▶ 数値実績に特殊な事情があり評価に影響した場合は、備考欄に「※」印を記入し、自己評価欄に状況を記入してください。

指標			元年度 実績	5年度 実績	6年度 目標値	6年度 実績	6年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考
1	ビジネス関連資料の満足度 (%) (利用者アンケート結果平均)	千代田	84.4	85.6	84.4	85.4	101.2	3	
		日比谷	84.2	86.1	88.0	90.1	102.4	3	
2	日比谷カレッジ企画数	日比谷	114	62	65	58	89.2	2	
	日比谷カレッジ満足度 (%) (カレッジ参加者アンケート結果平均)	日比谷	91.7	94.6	90.0	91.2	101.3	3	
3	データベース利用件数	千代田	4,366	3,206	3,420	3,206	93.7	2	
		日比谷	2,339	1,671	1,800	1,419	78.8	1	
	データベース利用満足度 (%) (利用者アンケート結果平均)	千代田	88.3	85.5	89.5	87.4	97.6	2	
		日比谷	91.2	91.5	91.5	91.9	100.4	3	
	データベース講習会の実施回数	日比谷	2	2	3	3	100.0	3	
4	キャレル席・電源付閲覧席の利用件数	千代田	23,637	20,146	21,400	20,888	97.6	2	
		日比谷	26,173	27,887	28,000	28,089	100.3	3	
	インターネット席利用件数	千代田	9,394	3,792	3,500	3,414	97.5	2	
		日比谷	4,592	2,621	2,600	2,206	84.8	2	
5	特別研究席の利用件数	日比谷	7,110	2,597	2,600	3,286	126.4	3	
	貸室稼働率 (%) (研修室・会議室・ホール)	千代田	71.3	52.2	55.0	57.3	104.2	3	
		日比谷	58.1	56.3	58.3	56.0	96.1	2	

(注)無線LANの提供は、区で契約し千代田図書館・日比谷図書館に提供している。

指標別評価平均	2.4
実績評価	b

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	b
令和6年度「ビジネスを発想するセカンドオフィス」の中で重視した内容・アピールポイント			
①ビジネス関連資料の満足度向上 ②日比谷カレッジ満足度確保 ③データベース利用件数増 ④特別研究席・貸室稼働率の向上			
上記の実施状況			
①ビジネス関連資料の満足度向上 ②日比谷カレッジ満足度確保 ③データベース利用件数の停滞 ④特別研究席・貸室稼働率の向上			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	b	ビジネス関連書籍は、社会の動向やそれに伴う利用ニーズの変化を捉えるとともに、正確で信頼度の高い情報を的確に提供することが図書館の使命と言えます。国内外の社会情勢や潮流を踏まえた資料の提供を行うとともに、適切な除架、除籍をすることで新鮮さを感じられる書架づくりが、目標値を超える満足度につながっていると考えており、今後も引き続き満足度の向上を目指します。	
2	b	日比谷カレッジは企画数を若干減らしましたが、高い満足度を獲得できています。来場者数65,000人の大催事「東京建築祭」との連携講座を実施し、地域の文化や魅力を広く発信する機会を提供し、日比谷図書文化館を訪れてもらうきっかけとなったと感じています。	
3	b	データベース利用満足度は比較的高い評価をいただいているに関わらず、利用件数は前年に続き減少傾向で頭打ちの状況です。専門的なサイトへのアクセスは依然として限定的であり、新聞等の時事系の情報検索が中心となっていますが、これらの情報入手の手段は昨今、個人レベルでも容易になりつつあります。今後、新規利用者獲得に向けての広報活動や、データベース講座を開催して、利用促進を図ります。また、提供内容や方法の見直しも視野に入れ、今後の検討を重ねます。	
4	b	キャレル席・電源席の利用は前年度実績を上回ったものの、インターネット席の利用は減少しています。PCやスマホの普及と進歩により、図書館内での利用に対する需要は今後も減少すると考えています。千代田、日比谷の電源席は、ともに土、日は早い時間から満席になることが多く、ワーキングスペースとしての需要は今後も高まっていくと思われますが、一方インターネット席は常連の方の利用に集中している傾向があります。	
5	b	特別研究席の利用は、前年度を上回ったもののコロナ禍前には回復していません。心地よい洗練されたワーキングスペースやカフェが多く出現している影響と思われます。日比谷の貸室稼働率はコロナ禍以前の水準に回復しています。	
評価項目全体の自己評価		限られた予算の中で、その時々々の社会環境を踏まえたビジネス資料を収集することは、難しさはあるものの常に満足度90%を目標としています。日比谷カレッジの企画数は前年比で減少していますが、誤差の範囲だと考えています。データベース利用については、認知度の向上とともに、個人レベルではアクセスしにくいジャンルの情報入手の手段としての利便性を告知していくことを目指します。インターネット席利用数の低減傾向は時代の流れによるものと判断しています。特別研究席の利用数、貸室稼働率は今後も微増傾向が続くと考えています。	

〈評議会委員の評価〉	b
▶ビジネス関連資料の満足度が目標を上回り、高い満足度を得られていることは、資料の提供という基本サービスへのニーズの高さとそれに応えられていることの評価である。引き続き、鮮度の高い書架づくりを維持していくことが求められる。 一方、データベースについては、利用満足度は高いにもかかわらず、利用件数が減っていることから、未利用者への認知向上が課題である。評議会でも意見があったが、千代田区内大学図書館と区内図書館との連絡会を通じて、区内大学の卒業時に、図書館の利用やデータベース利用の案内を行うことも一案である。 ▶ビジネス書というのは、とても時代に追従が必要であり、アップデートされる必要がある。そのような意味において、十分に目標をクリアできている。インターネットも時代の変化である。 ▶ビジネス支援の拠点としての機能を担う本項目においては、ビジネス関連資料が十分に整備され、利用者アンケートにおける満足度が高い水準で維持されていることが安心材料となっている。日比谷カレッジも多くの参加者から高い評価を得ていて、学びや交流の場として確かな位置づけを築いていることが分かる。貸室の稼働率が回復傾向にあることも、利用者同士の交流や地域ビジネスの発展につながる成果といえる。 他方、データベース利用件数やインターネット席の利用が減少しているが、これは社会におけるICTの普及や働き方の変化に伴う自然な流れであり、必ずしも課題とは言えない。むしろ、利用者が自らのデバイスを活用する傾向が定着してきている証左とも考えられる。今後は、引き続き利用者のニーズを丁寧に把握し、利用環境の利便性や快適性を高めることで、図書館が「セカンドオフィス」としてより幅広く利用されることを期待する。 ▶＊ビジネスの発想を育てる資料を整備 ビジネス関連資料の満足度が目標値を上回っていて、資料の整備は適格に行われている。 ＊セミナーや講演会によるビジネス支援 日比谷カレッジの満足度は高いが、企画が目標値を下回った点は残念であり、次年度以降は目標の達成を期待したい。 ＊情報収集しやすい利用環境の整備 データベースの利用満足度は高いものの、利用件数は目標を下回っているので、利用件数増に向けた取り組みを期待したい。 ＊貸室運営による交流活動の促進 貸室稼働率がほぼ目標を達成している。自己評価にもあるとおり、ワーキングスペースやカフェなどが増えていて、区の施設のメリットを活かした運営が必要である。 ▶利用できる端末数の制限等の事情もあるが、データベース利用の申込制は、敷居が高く感じられる。まったくの初心者への使い方ガイダンス等も含め、さらなる利用促進のための施策が必要である。気軽に触ってみられるお試し席や、簡単な利用ガイドブック等があると、さらに利用者が増えるのではないかな。 ▶データベースの利用促進に向けて、区内の大学図書館と連携し、卒業生のうち、主に区内で勤務する人に対して区立図書館で利用可能なデータベースについて案内するなどの取り組みを試みてはどうか。大学時代にデータベース利用に慣れている人であれば、社会人になってからも区立図書館でデータベースを利用する可能性は高いと思われる。 ▶1について、社会環境の影響を大きく受ける「ビジネス関連資料の満足度」が、目標値を超えたことは評価したい。また、日比谷カレッジについても企画数が若干減少したものの、高い満足度を獲得している点も評価したい。 3の「データベースの利用件数」について、さまざまな情報源が存在する中でデータベースを利用する意義や利便性を伝えていくことは、大変難しいが、データベースの利用方法と併せてしっかりと伝えていく必要がある。 ▶5.言われてみれば自分もカフェを利用するので、なぜ図書館を利用しないかと言われると、ビジネス利用しても良いという印象がないからなのではないか？と思った。 無料で利用できる！涼しい！快適（WiFi環境など？）！といった宣伝文句や、ビジネス利用応援月間を設定し、その期間に向けてホームページやチラシで告知するなどのアクションやPRがあっても良いのではないかな。 ビジネスマンを呼び込む→知の拠点として利用（貸出）を促進する→その層のニーズをアンケートや窓口への相談を通して収集し、それをフィードバックする、といったワークフローがあると、より良い図書館作りや、図書館利用者層の開拓につながるのではないかな。	

評価項目	③ 区民の書斎	総合評価	B
------	---------	------	---

- * 上質な読書空間を皇居前の地に形成
- * 中・高生が学び、考える力が育つ資料を整備

- 1 資料の収集・管理
- 2 中高生向け資料の収集、読書環境の整備
- 3 レファレンスサービス・読書相談の受付（資料探しのお手伝い）
- 4 障害者サービス（郵送貸出、拡大読書器の設置等）の提供
- 5 電子書籍、音楽配信サービス等デジタルコンテンツの提供

指標			元年度 実績	5年度 実績	6年度 目標値	6年度 実績	6年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考	
1	資料の貸出数（電子書籍を除く）	在住	379,145	416,543	417,000	419,875	100.7	3		
		在学	13,351	6,567	7,000	6,136	87.7	2		
		在勤	247,531	174,193	175,000	176,813	101.0	3		
		区外	245,459	184,342	185,000	181,023	97.9	2		
	相互貸借利用件数（借用）		共通	3,640	3,234	3,000	3,249	108.3	3	
	相互貸借利用件数（貸出）		共通	2,628	1,970	2,000	2,015	100.8	3	
	利用者満足度（%） （利用者アンケート結果 千代田・日比谷は平均）	千代田	95.7	98.1	90.0	95.8	106.4	3		
		日比谷	96.2	98.0	90.0	96.8	107.6	3		
		四番町	－	89.6	90.0	90.2	100.2	3		
		昌平	94.5	98.2	90.0	94.9	105.4	3		
		神田	95.9	95.7	90.0	99.0	110.0	3		
	蔵書満足度（%） （利用者アンケート結果平均）	千代田	83.1	86.1	87.1	89.4	102.6	3		
		日比谷	85.3	89.4	89.2	91.3	102.4	3		
	区民登録率（%） （全区民中の実登録者の割合）			17.0	18.2	18.0	17.5	97.2	2	
2	中高生向け図書展示回数	千代田	4	4	4	3	75.0	1		
		四番町	5	12	12	12	100.0	3		
	中高生席の利用満足度（%） （利用者アンケート結果平均）		千代田	－	84.1	91.0	88.1	96.8	2	
3	レファレンス・読書相談件数	千代田	5,431	4,411	4,800	4,623	96.3	2		
		日比谷	7,276	2,014	2,000	1,716	85.8	2		
	パスファインダー作成・更新件数	千代田	2	2	2	3	150.0	3		
		日比谷	2	8	10	28	280.0	3		
4	郵送貸出件数（デジ―図書含まず）	共通	65	123	130	125	96.2	2		
	点字資料・大活字本・デジ―図書等蔵書数	共通	2,050	2,085	2,100	2,655	126.4	3		
	点字資料・大活字本・デジ―図書等貸出数	共通	－	635	650	527	81.1	2		
5	千代田Web図書館貸出件数		9,124	18,930	19,000	21,220	111.7	3		
	千代田Web図書館・ナクソス満足度（%） （利用者アンケート結果平均）		－	85.3	87.6	84.3	96.2	2		
	千代田Web図書館所蔵タイトル数		8,323	11,752	12,000	12,946	107.9	3		
	音楽配信サービス（ナクソス）利用件数		66,118	58,550	59,000	57,774	97.9	2		
						指標別評価平均		2.6		
						実績評価		b		

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	b
令和6年度「区民の書齋」の中で重視した内容・アピールポイント			
①資料貸出数の増加 ②利用者満足度90%以上の確保 ③利用者相談への確実な対応 ④Web図書館・ナクソスの利用拡大			
上記の実施状況			
①資料貸出数の微増 ②全館の利用者満足度90%以上を確保 ③安定した利用者相談への対応 ④Web資料利用の増加・ナクソス利用の停			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、 また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	a	資料の貸出は堅調に推移しています。区民登録率が増えていない反面、在住者の貸出が増えているのは、リピーターの利用が伸びていることを示しており、それだけ図書館利用が区民の間に定着してきたと言えるかもしれません。利用者満足度、蔵書満足度が高い数値を示しているのも、そうしたことのひとつの表れと考えています。	
2	b	千代田図書館における中高生向けの展示は、他の業務との兼ね合いもあり予定の回数を実施できませんでした。一方、中高生席については、夏期の繰上げ開館時から席数を4席増やして需要に応じてきましたが、猛暑で館内の室温が上昇したことへの苦情が多く、満足度は高まりませんでした。令和7年度は建物全体の基準の室温を下げる予定となっており、満足度が向上することを期待しています。	
3	b	レファレンス・読書相談件数は、目標値には達しませんでした。インターネットやAIなどの発達により個人の検索能力が進んだ結果ではないかと考えています。調べ物に役立つツールや調べ方のヒントを記載した、日比谷のバスファインダーの作成・更新回数は、レファレンス研修などの成果を積極的に反映させて情報更新を行った結果、目標値を大幅に超えました。	
4	b	所蔵数は前年度に比べ27%増です。また、令和6年度は「りんごの棚」の設置など、読書バリアフリーの推進につながる取り組みを積極的に行いました。これらの取り組みが貸出利用の増につながると期待しています。	
5	a	Web図書館の利用は、目標値を大きく上回り、ナクソス（音楽配信サービス）の利用はほぼ横ばいながら、導入している図書館の中では高い利用実績との情報を得ており、この水準を維持出来るように努めます。なお、Web図書館とナクソスの満足度については令和7年度から分けて調査を行っています。	
評価項目全体の自己評価		何より、図書館運営において基本となる「利用者満足度」において高い実績を見ることができ一安心です。貸出等の来館者サービス、Web図書館等の非来館者サービスの実績も堅調です。来館利用の満足度は施設の環境条件によることも多いため、充実が難しい面もありますが、たとえば千代田図書館における中高生の学習支援の充実を目的とした専用席の増席や、読書バリアフリーの推進に寄与するための「りんごの棚」の設置など、一步一步小さなサービス改善が結果に繋がっているのかもしれません。今後も利用者から支持され愛される図書館になるべく、着実な運営を心がけていきたいと考えています。	

〈評議会委員の評価〉	b
▶ 一般にインターネット利用等の時間増加から本離れと言われるなか、資料の貸出数の増加、特に在住の方の貸出数が伸びていることは、資料の提供という基本サービスへのニーズの高さの表れである。 利用者満足度について、目標値を上回り高いレベルにあるため、これを維持する方向で取り組むことで良い。しかし、よく見ると館によっては前年度実績からはやや下がっているため、可能なことには取り組むなど、利用者アンケートの丁寧な分析が求められる。 また、Web図書館貸出件数が伸びてきているが、冊子のほうで蔵書回転率を指標にしているのであれば、今後、同様にタイトル数に対する利用率を見ていくことも検討してもよいかもしれない。 ▶ 資料の貸出数や所蔵冊数などにおいては、概ね順調な水準である。今年の夏も図書館を訪れたが、中高生の利用者も多く、柔軟に対応していることはよいことである。 ▶ 「区民の書斎」としての役割においては、資料の貸出数が堅調に推移し、利用者満足度および蔵書満足度が90%以上という高水準で安定していることは特筆すべき成果である。これは、地域住民にとって図書館が信頼できる「学びの場」として機能していることを示している。特に、バリアフリーの観点から「りんごの棚」を設置したことは、障害の有無にかかわらず誰もが利用しやすい環境を整えるものであり、評価すべき取り組みである。 レファレンス件数の減少や中高生向け展示の回数不足といった課題もあるが、これらは一時的な傾向であり、利用基盤そのものは安定している。中高生をはじめとする若い世代への働きかけを強化することで、将来的にはより幅広い利用層を取り込むことができると考えられる。利用者に寄り添う姿勢を引き続き大切に、環境改善と併せてさらなる充実を図ってもらいたい。 ▶ ＊ 上質な読書空間を皇居前の地に形成 利用者満足度が90%、95%を超えている点は評価できる。 ＊ 中・高生が学び、考える力が育つ資料を整備 中高生向け図書展示回数や中高生席の利用満足度において、目標をほぼ達成できている点は評価できる。 ▶ 明確な研究テーマが決まっていない場合、リファレンサーへの依頼は、かなり敷居が高いと感じてしまう。その点、パスファインダーの充実には内部スタッフのスキル向上の意味でも、非常に評価できる取り組みである。またWeb上で公開していることもユーザーにとってもとても便利である。今後ますます情報リテラシーの高さが重要になってくる中、正しい情報にたどり着けるための手助けとしてパスファインダーは、図書館の大きな存在意義になってくる。またコロナ禍以降、電子書籍に対する需要はますます高まっていると感じられる。読書バリアフリーの観点からも、タイトル数のますますの充実が喫緊の課題である。 ▶ 「利用者満足度」が高い水準で維持されていることは大きく評価できる。これからも維持できるよう、蔵書整備や図書館サービスの充実に努めてほしい。「千代田Web図書館」については、堅実な利用実績であるが、中高生などデジタルに慣れ親しんでいる世代への広報を強化することで、さらなる利用実績の増加が図れると思われるので、検討してほしい。 ▶ 全体を通して、令和5年度実績と同じく安定した実績となっているといえる。 「区民登録率」が増えていない中でも、「資料貸出数」が増えたこと、全館の「利用者満足度」が90%を確保したこと、また、「蔵書満足度」が昨年度の実績よりも増加したことを評価したい。 2については、令和6年度はさまざまな事情があったとのこと、引き続き中高生向け資料の収集や読書環境の整備に尽力してもらいたい。 3の「レファレンス・読書相談件数」については、指定管理者による自己評価にもあるように、インターネットやAIなどの影響が大きいが、レファレンスサービスや読書相談は、図書館の重要なサービス（図書館ならではのサービス）である。パスファインダーの作成・更新と併せて資料探しをサポートする環境を整えてもらいたい。 4について、「点字資料・大活字本・デジ図書等蔵書数」は昨年度から大きく増えたものの、貸出数は減少している。今後も読書バリアフリーを推進していく取り組みに期待している。 ▶ 2.令和6年度の本評議会で未就学児の時は子どもの読書推進についてのケアが手厚いものの、年齢層が上がってくるとそれが控えめになってくるという話を他の委員から伺った。そのような意見も踏まえて、中高生の取り組みに関する施策にも力を入れてもらいたい。区内の大学で実施している貸出券の登録会についても、区内の小学校・中学校・高校や区内のイベントに広げてもらいたい。 4.既に実施しているかもしれないが、読書バリアフリーの推進に向けては、実施した後に、区内施設からのフィードバックをもらうなど、実施するだけではなくフィードバックと改善を重ねていてもらいたい。実施して利用増について期待しているという姿勢のように受け取れたので、もう一歩踏み込んだ向き合い方がないと、改善に向けてより良い意見の聞き取りにつなげられるのではないかと。 また、AIに関するリテラシー教育については、図書館が担うべき役割など議論すべき事があるのではないかと。図書館の役割として、「読書振興」から「学びの振興」といった側面への注目を集めるために、AIは良いフックになるのではないかと。間違った使い方、権利侵害につなげないためにも、区民のAIリテラシーの確保をどこが担っていくべきか（区政かもしれないが・・・）、気になっている。 逆説的に、「学びの振興」という言葉を使ったが、情報がどんどん効率化され、映像コンテンツに書籍が力及ばない今、非効率だけれども文学的要素を楽しんだり、人生の「余白」的な立ち位置として、あるいはビジネスをする上での良きパートナー（知の拠点）として、図書館の意義についても発信・確立していく良ききっかけになるのではないかと前向きに捉え、具体的な方針・方策について議論したい。	

千代田区図書館評議会 令和6年度図書館運営に対する評価シート

評価項目	④ クリエイトする書庫	総合評価	B
------	-------------	------	---

【コンセプト】	【取り組み項目】
---------	----------

- * 千代田図書館の貴重な資料による研究の場を提供
* 千代田区の地域資料を歴史的資料と捉え充実させる

- 古書販売目録、内務省委託本、一橋・駿河台図書館業務資料、内田嘉吉文庫等の活用
- 特別研究室の利用促進
- 特別展・特別展開連イベントの実施
- 一般図書展示

▶ 数値実績に特殊な事情があり評価に影響した場合は、備考欄に「※」印を記入し、自己評価欄に状況を記入してください。

指標		元年度 実績	5年度 実績	6年度 目標値	6年度 実績	6年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考
1	古書販売目録、内務省委託本、一橋・駿河台図書館業務資料の調査・研究件数	千代田	5	2	2	100.0	3	
	内務省委託本、一橋・駿河台図書館業務資料の研究成果の発表件数	千代田	0	2	2	50.0	0	
	地域資料の受入件数	共通	289	130	110	141.8	3	
2	特別研究室企画展示回数	日比谷	4	5	4	100.0	3	
	特別研究室入室者数	日比谷	11,968	6,496	6,500	107.6	3	
3	特別展入場者数（平均）	日比谷	7,861	16,739	7,000	74.2	1	
	特別展満足度（%） （入場者アンケート結果平均）	日比谷	95.3	96.0	90.0	106.6	3	
	特別展示関連講座実施回数	日比谷	3	6	6	133.3	3	
	特別展示関連講座満足度（%） （講座参加者アンケート結果平均）	日比谷	91.3	93.4	90.0	104.8	3	
4	一般図書展示回数	日比谷	194	228	190	132.6	3	
		四番町	10	31	30	93.3	2	
		昌平	12	24	24	100.0	3	
		神田	6	10	8	175.0	3	
	蔵書回転率（%）（貸出冊数÷蔵書数）※	千代田	137.9	8.9	8.9	101.1	3	
		日比谷	76.0	5.0	5.0	98.0	2	
		四番町	93.4	18.9	18.8	96.3	2	
		昌平	240.7	17.0	17.0	97.6	2	
		神田	493.2	38.2	38.2	100.8	3	
	日比谷カレッジと図書フロアの連携企画数	日比谷	26	28	20	130.0	3	

※令和5年度からは毎月の平均値

指標別評価平均	2.5
実績評価	b

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	b
令和6年度「クリエイトする書庫」の中で重視した内容・アピールポイント			
①所蔵する貴重書の研究とその内容の発信 ②読書振興に向けた図書館資料の企画展示・イベントの実施 ★特別研究室資料のデジタル化			
上記の実施状況			
①停滞していた内務省委託本研究会の進展 ②所蔵資料の企画展示・イベント実施 ★特別研究室資料のデジタル撮影(200点)			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	b	現在「古書販売目録」「一橋・駿河台図書館業務資料」の研究は行っており、「内務省委託本」についての研究会のみ継続しています。コロナ禍における中心的参加者の離脱から、ようやく本格的な歩みを再開した年度となりました。今後発表された論文を積み重ねて、成果となる書籍の発刊を目指していきます。	
2	b	特別研究室の企画展示は予定通り4回(「日本統治期の台湾の産業」「さまざまなリリユール作品」「江戸名所図会に見る行楽と商い」「内田嘉吉文庫見る19世紀の装飾本」)実施しました。特別研究室の入室者数は増加傾向にありますが、コロナ以前に比して未だ60%程度であり、特別研究席の利用者数も同様の状況です。なお令和6年度から5年間の予定で特別研究室資料のデジタル化撮影を開始しています。	
3	b	日比谷の特別展は、令和5年度「関東大震災」をテーマにして無料開放したことで多くの入場者を獲得したため、令和6年度は極端に低く見える結果となりましたが、満足度は決して低くはありません。とは言え目標値を下回る数値となっており、今後集客が見込めるテーマの設定を慎重に行っていく予定です。	
4	b	日比谷の一般図書展示は、回数で目標値を超えただけではなく、アンケートでも高評価をいただくなど、充実した内容でした。蔵書回転率は、ほぼ目標値に近い実績です。日比谷は来館者数・登録者数の増加に比べ伸び悩んでいますが、滞在型の特性や利用者のニーズがはっきりと現れている数字だともいえます。仮施設の四番町は若干回転率が低いものの、神田・昌平ともども堅調な推移だと認識しています。	
評価項目全体の自己評価		「内務諸委託本研究会」が本格的に動き出したのは一つの成果だと考えています。特別研究室・研究席については、抜本的な改革は次回の指定管理期間での提案としたいと考えており、令和8年度までは数値の上昇傾向を継続させることに注力したいと考えています。日比谷の特別展は入場者数が目標に到達しておらず、企画のあり方、広報のあり方を含め目標に近づける方法を模索していきます。一般図書の展示回数はほぼ目標通りとなり、今後も読書振興に向けた大きな手段としてクオリティ向上を図ります。蔵書回転率は他の公共図書館と比べればかなり高い数値だと認識しています。ただ、それは母数である蔵書数が少ないことによるものでもあり、千代田区立図書館として常に前進させる努力を継続していきたいと考えています。	

〈評議会委員の評価〉	b
▶一般図書展示について、多くの回数が実施されていて、来館動機につながったり、新たな興味関心を感じるきっかけになったりするなど、本と利用者をつなぐ大きな役割を果たしている。ただ、日比谷について、既に多くの回数を実施しているうえ、前年度実績より抑えた目標値設定をしていたので、回数を増やせたこと、それにより目標達成率が大幅に向上したこと自体を高評価として良いのかは、少し疑問である。テーマ選定や実施回数計画もあるので、必ずしもこれ以上の回数増加に重点を置かなくても良いのではないか。展示は、その期間だけのものになってしまうので、展示したブックリストを残すなどして、終了後も活かせる工夫をしてはいいかがか。 ▶この項目は、数字だけではわからない部分も多いが、日比谷を中心とした書架の充実、特別展など魅力的なものが実施されているので十分ではないか。 ▶「クリエイイトする書庫」では、特別研究室における企画展示が4回実施され、研究会も再始動し、資料のデジタル化が始まったことは大きな前進である。これは、専門的研究の場としての機能を再び高めつつあることを示している。特別展の入場者数については目標に達していないが、実施された展示や講座の満足度は高く、参加者から支持を得られた点は重要である。研究件数が限定的であることや、コロナ禍以前と比較して入室者数が回復途上にあることは事実であるが、取り組みの方向性は着実であり、これからの発展に期待できる。特に、デジタル化によって資料の利活用の幅が広がれば、専門研究者のみならず一般利用者にとっても価値ある知の資源となるはずである。今後はさらなる発信力と集客力を高め、千代田区の知的拠点としての役割をより一層強化していくことを期待する。 ▶＊千代田図書館の貴重な資料による研究の場を提供 「内務省委託本」の研究会の継続については、引き続き活動を進めてもらいたい。現在行っていない「古書販売目録」「一橋・駿河台図書館業務資料」の研究について、今後の計画等を示してもらいたい。 ＊千代田区の地域資料を歴史的資料と捉え充実させる 充実させるというコンセプトが、資料の数を増やすことなのか、資料を基にした研究を充実させることなのかかわかりにくく、評価が難しい。今後目標の立て方を工夫したほうが良い。 ▶日比谷図書文化館の特別展は、地域の歴史や文化への興味を喚起するとともに、普段図書館を利用しない層の来館促進にも大きく寄与している。前期の『桜田門外の変』の特別展に関連した街歩きツアーは、非常に高倍率だったと聞いた。日比谷図書文化館には優秀な学芸員が多く在籍しているので、彼らの力を活用して、特別展に限らずミニ講座や街歩きツアー等頻繁に行えば、区民の歴史や文化への関心もより高まり、日比谷図書文化館の存在意義もより感じてもらえるのではないか。 ▶「内務省委託本」についての研究の本格的な再開には注目している。所蔵資料に関する研究を進めることも図書館の重要な役割の1つである。今後の研究の進展に期待している。 ▶1について、内務省委託本研究会が本格的に動き出したことは今後に期待できる。研究という性質上、調査・研究件数や研究成果の発表件数については、研究の進行状況によって変わってくる。今後に期待する。 2について、特別研究室の企画展示の内容は大変興味深い。今後の企画展示も期待している。また、特別研究室資料のデジタル化も始まったことも楽しみにしている。 3について、「特別展入場者数」は、テーマだけでなく、有料・無料によっても大きく変わってくると思われる。十分に高い満足度が得られていることから、引き続きテーマ設定を慎重に行ってもらいたい。 4の「一般図書展示回数」において、日比谷と神田は昨年度の実績および令和6年度の目標値を大きく超えた点を評価したい。自分の興味・関心がある図書だけでなく、思いもよらなかった図書との出会いを提供する（人と資料をつなげる環境を用意する）ことも図書館の重要な役割である。 ▶非常にテーマ設定が難しい中、試行錯誤しながら特別研究室の蔵書を動かすことに取り組んでいることを評価する。台湾の方の視察を参考にしながら、特別研究室の魅力の開拓と発信を引き続きお願いしたい。	

評価項目	⑤ ファミリーフィールド	総合評価	B
------	--------------	------	---

- 1 子どもと大人の読書環境の整備
- 2 児童図書展示等による読書振興
- 3 おはなし会、子ども・親子向けイベント等の実施
- 4 子ども読書調査の実施
- 5 学校等支援事業

指標			元年度 実績	5年度 実績	6年度 目標値	6年度 実績	6年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考	
1	児童資料貸出数	千代田	45,131	44,037	45,000	42,845	95.2	2		
		四番町	82,757	98,340	99,000	94,491	95.4	2		
		昌平	19,355	19,527	20,000	19,744	98.7	2		
		神田	39,130	42,488	43,000	41,342	96.1	2		
	児童資料満足度(%)（利用者アンケート結果平均）		千代田	87.3	94.8	95.8	91.4	95.4	2	
	児童室・赤ちゃんルーム満足度（%） （利用者アンケート結果）		四番町	－	95.7	96.0	96.2	100.2	3	
	託児サービス利用者数		千代田	15	22	22	17	77.3	1	
	区内児童施設へのリサイクル本の提供冊数			461	0	400	351	87.8	2	
2	児童資料展示回数	千代田	45	36	36	36	100.0	3		
		四番町	20	54	40	58	145.0	3		
		昌平	12	18	12	23	191.7	3		
		神田	10	15	12	13	108.3	3		
	図書館での児童向けブックリスト作成数		共通	8	6	7	6	85.7	2	
	区内教育施設等への情報発信回数（メールマガジン発信）			12	7	12	8	66.7	1	
3	おはなし会実施回数	千代田	11	12	12	12	100.0	3		
		四番町	39	53	50	51	102.0	3		
		神田	11	12	12	12	100.0	3		
	おはなし会参加者数	千代田	308	156	144	132	91.7	2		
		四番町	1,059	1,305	1,000	1,031	103.1	3		
		神田	268	183	200	157	78.5	1		
	おはなし会満足度（%）（利用者アンケート結果）		四番町	－	97.5	95.0	100.0	105.3	3	
	ブックスタート参加者数			499	497	450	499	110.9	3	
	子ども向けイベント実施回数	千代田	4	9	7	7	100.0	3		
		四番町	17	10	10	8	80.0	2		
子ども向けイベント参加者数	千代田	239	198	150	146	97.3	2			
	四番町	372	319	320	322	100.6	3			
4	子ども読書調査における不読率（%） （1か月の読書冊数が0冊の子どもの割合）	小学校	2.1	3.6	3.6	4.9	73.5	1		
		中学校	12.7	16.3	16.3	17.4	93.7	2		
5	支援先での読み聞かせ・ブックトーク実施回数		1,538	2,479	2,300	2,246	97.7	2		
	支援先でのレファレンス・読書相談の受付回数		933	1,490	1,200	1,999	166.6	3		
	支援先でのブックリスト作成数		65	31	30	61	203.3	3		
	支援先での保護者・ボランティア向けイベント回数		12	14	10	14	140.0	3		
						指標別評価平均	2.5			
						実績評価	b			

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	b
令和6年度「ファミリーフィールド」の中で重視した内容・アピールポイント			
① 確実な児童資料の収集による満足度の向上 ② 読書振興に向けた企画展示回数の確保 ③ フファミリー向けイベントの実施			
上記の実施状況			
① 千代田図書館における児童資料の強化は継続的な課題ですが、満足度90%の目標を達成 ② 企画・イベントはほぼ予定通り実施			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	b	少子化の影響か、児童資料の貸出利用は減少傾向で、それに伴い児童資料の満足度も低下しています。児童室・赤ちゃんルームの満足度は依然高いですが、託児サービスの利用ニーズも減っています。リサイクル本の提供は2年ぶりの実施でしたが、こちらも需要が予想していたほど多くなく、目標値には届きませんでした。なお、昌平まちかど図書館に比べて、神田まちかど図書館の貸出数が多いのは、学校図書館資料の貸出数を含んでいるからであり、現行システムでは区別ができない仕様になっています。	
2	b	児童資料の利用促進につなげる取り組みの展示は、各館とも積極的に実施し、目標値以上の実績を上げました。一方、教育施設への情報発信は前年度実績並みの結果であり、今後はより努力が必要と考えています。	
3	b	おはなし会の実施と参加者については、神田まちかど図書館を除き、ほぼ目標値をクリアしました。神田は場所も狭く、もともと多くの集客が望めない中では健闘しているレベルだと評価しています。利用者の満足度も高く、子ども向けイベントの集客も好調です。	
4	b	小・中学生共に目標を下回ってしまいましたが、特に小学生の不読率が高いため、引き続き子どもの読書意欲を高める取り組みとして、学校・保護者との連携強化、読書推進イベントの充実、興味を持ちやすい書籍・コンテンツの選定を進めていきます。	
5	b	概ね、目標を上回る結果でした。支援先との協働体制が確立され、現場のニーズに即した柔軟な対応が図れた結果だと思われます。今後も、質の維持、向上を意識し、更なる満足度向上に努めます。	
評価項目全体の自己評価		かつて児童資料の貧弱さを指摘されていた千代田図書館ですが、そうした時期を乗り越えて新たなフェーズに入った感があります。ただ、数値的には決して高いとは言えない実績が並ぶこととなりました。千代田の託児サービスについては認知度を高める手段を具体的に講じる必要があると考えています。神田のおはなし会については、もともと実験的に開始してそのまま年度計画とするようになっていて、現状が精一杯というのが本音です。不読率については、令和6年度の図書館評議会でお伝えしたように、図書館評価の項目としてはふさわしくないと考えていますが、読書振興の目安としては大いに参考としながら対策を講じたいと考えています。学校や幼児、児童施設への支援は支援先の先生や指導者との連携が基本となるため、日常的なコミュニケーションを密にすることを基本としています。	

〈評議会委員の評価〉	b
▶児童資料の貸出数が伸びない一方で、支援先での読書相談等の回数は伸びているということは、学校図書室での利用は活発なものの、図書館の利用に結びつかないということか。保護者と一緒に来館する小学校低学年までと、一人でも来館できる小学校高学年以降へのアプローチを変える必要があり、恐らく、現在は前者寄りになっているのではないか。 大人と異なり、0歳から中学3年生では相当な違いがあるので、そのあたりをもう少し「児童」とひとくりにせずに捉えていく必要がある。まずは後者のうち、本好きな子を主対象に想定した本にまつわる参加型イベントや継続活動を検討してはいかか。そこから活性化につなげることを探っていても良い。 ▶児童の不読率の高さは、確かに図書館の評価項目としては難しい面がある。私も様々な区の小学校の図書室の教育、蔵書を見る機会があるが、児童の希望を大きく反映した蔵書の学校は、児童が意欲的に利用していると感じた。やはり、学校との連携が必須である。 ▶子どもと家庭を支える「ファミリーフィールド」では、おはなし会や各種イベントが順調に実施され、児童資料に関する満足度も目標を上回る成果を示していることは大変心強い点である。子どもたちにとって図書館が「楽しい学びの場」として定着しつつあることが伺える。 一方で、児童資料の貸出数は減少傾向にあり、子どもの読書不読率が高いという課題が見られる。これは全国的にも共通する傾向であり、図書館単独で解決することは容易ではないが、むしろ家庭や学校と連携し、読書習慣を支える環境づくりを進めていく必要がある。特に、学校支援事業や司書による読書相談の強化など、子どもたちが本と出会う機会を多方面から提供することが重要である。イベントやプログラムの質の高さは既に実証されていて、今後もこの強みを活かしながら、読書の魅力を家庭や地域社会と共有し、子どもたちの意欲を高めていくことを期待する。 ▶＊保護者として必要な知識を提供できる場を設置 児童資料貸出数はほぼ目標を達成していて、保護者が知識を得ることができる環境は整っている。児童資料満足度も90%を超えていて、良い水準である。 ＊0歳から中学生までの読書を支援 おはなし会や子ども向けイベントなどは目標をほぼクリアしていて、評価できる。子どもの不読率については、スマートフォンの影響などで難しい問題であるが、引き続き様々な取り組みを期待したい。 ＊託児サービス等による保護者のリカレント学習環境を整備 託児サービス利用者数については、目標を下回っていて、ニーズはあると思われるので、利用促進に向けた宣伝等が必要である。 ▶以前、四番町図書館で行われた『絵本の読み聞かせと紙芝居』の講習に参加したことがある。このような形で、ただ受け身だけでなく積極的に図書館の活動に関わってもらえる住民を育てていくことも、図書館に期待される役割である。ただ場を提供するだけでなく、住民が一体となって図書館運営に携わっていると実感してもらえる仕掛けも必要ではないか？現在建替え中の新しい四番町図書館には、今までの図書館にはない住民参加型のさまざまな試みを期待したい。 ▶堅実なサービスが展開されている。令和7年度からは新たな千代田区子ども読書活動推進計画がスタートする。計画の内容を踏まえて、さらなる児童サービス、学校図書館との連携の充実に期待している。 ▶1について、「児童資料貸出数」の減少が、満足度の低下につながっていると、一概に言えないと思っている（借りるのではなく、その場で読みたい子どもたちもいると思われるため）。また、託児サービスも図書館での利用が減少しただけで、千代田区のほかの託児サービスを利用している可能性もある。そうなると図書館だけの問題と捉えるのには限界があると思われる。 2について、児童資料展示を積極的に行っている点は評価する。今後も、取り組みの成果の判断を貸出数に向けすぎないように継続してもらいたい。 5の各指標の評価が高い点は、大いに評価できる。引き続き、支援先とのコミュニケーションを大事にしてもらいたい。 ▶1.託児サービスは利用したいが、時間の制限や、スタッフに相談しにくい環境があるのではないか。とはいえ、世の中の子育てに関するサービスは予算的な面で格差が出るところでもあるので、千代田区としてどこまで関与し、子育て応援について本腰を入れて取り組むのか、という議論がまずあってからではないか（図書館主導で行うには限界がある？）。また、WEBで託児サービスも予約できるシステムがあると利用しやすい。四番町図書館のリニューアルに期待したい。	

千代田区図書館評議会 令和6年度図書館運営に対する評価シート

評価項目	⑥ 管理運営等	総合評価	A
------	---------	------	---

【コンセプト】	【取り組み項目】
---------	----------

* なし

- 1 利用者サービスの質的向上
- 2 職員の各種スキル向上・人材育成
- 3 利用環境の整備、施設維持管理業務
- 4 レストラン・カフェ＆ショップの運営
- 5 その他総務

▶ 数値実績に特殊な事情があり評価に影響した場合は、備考欄に「※」印を記入し、自己評価欄に状況を記入してください。

指標			元年度 実績	5 年度 実績	6 年度 目標値	6 年度 実績	6 年度 目標達成率 (%)	指標別 評価	備考
1	入館者数	千代田	567,791	394,278	426,000	437,145	102.6	3	
		日比谷	702,565	521,501	563,000	556,037	98.8	2	
		四番町	203,518	116,609	126,000	116,591	92.5	2	
		昌平	86,897	66,593	72,000	70,617	98.1	2	
		神田	149,561	100,609	108,000	106,294	98.4	2	
	新規登録者数	共通	23,131	17,227	17,000	18,154	106.8	3	
2	職員研修参加人数（延べ人数） ※実施・参加状況は自己評価欄に記載	共通	466	433	450	454	100.9	3	
	職員対応満足度（%） （利用者アンケート結果 千代田・日比谷は平均）	千代田	96.9	96.1	95.0	96.3	101.4	3	
		日比谷	97.8	98.2	95.0	98.1	103.2	3	
		四番町	－	99.6	95.0	98.4	103.6	3	
		昌平	－	100.0	95.0	100.0	105.3	3	
		神田	－	100.0	95.0	100.0	105.3	3	
3	合理的配慮件数 ※障害をお持ちの方への合理的配慮のほか、 LGBTQの方への配慮を含む	共通	493	224	250	360	144.0	3	
	利用環境整備 ※安全性の向上・バリアフリーの推進等を含む	共通	－	－	－	－	－	－	
4	レストラン、カフェ＆ショップ来客数	日比谷	108,409	78,110	76,000	86,874	114.3	3	
5	防災・避難訓練実施回数	千代田	2	3	3	3	100.0	3	
		日比谷	2	2	2	2	100.0	3	
		四番町	2	2	2	2	100.0	3	
		昌平	1	1	1	2	200.0	3	
		神田	1	1	1	1	100.0	3	
	視察対応件数	千代田	18	12	12	17	141.7	3	
		日比谷	18	15	12	13	108.3	3	
	区内大学からの実習生受入人数	千代田	3	3	3	3	100.0	3	
		日比谷	4	3	3	3	100.0	3	

(注)利用環境整備は、数値化して評価できるものではないため（－）としている。

指標別評価平均	2.8
実績評価	a

〈指定管理者による自己評価〉		評価項目全体の評価	a
令和6年度「管理運営等」の中で重視した内容・アピールポイント			
① コロナ禍で減少した利用者数の回復 ② 職員のスキルアップ ③ 対外施設・機関との連携			
上記の実施状況			
① 利用者数の回復傾向は継続 ② 所定の研修受講はクリア ③ 対外的な連携は増加傾向			
	各項目の評価	各項目の自己評価 ※特殊な事情が評価に影響した場合は、その事情がどのように評価に影響したか、また、実績値に加えて、分かりやすく補足する数値・内容があれば、自己評価欄に記入してください。	
1	b	入館者数は目標値には達しませんでした。前年度実績と比べると、わずかに減少した四番町図書館以外は、いずれもかなりの増加となりました。Web図書館など非来館者サービスが好調であることの裏返しや、猛暑やゲリラ豪雨などの天候の不順が続いた時期に、高齢者の来館が減少したことが影響していると考えられます。一方、新規登録者は大幅に目標値を上回りました。	
2	a	利用者サービス向上のベースとなる職員のスキルアップには、令和6年度も積極的に取り組みました。利用者の職員に対する満足度も高く、いずれの館でも目標値を上回ることができました。日比谷の図書サービスでは、内部でのオンライン研修をメインに、外部での研修にも積極的に参加しています。研修で得た知識や気づきをスタッフ間で共有するとともに、パスファインダーや「やさしい日本語」を用いた利用案内の作成など、日々の業務に活かすよう努めました。また、ハラスメント研修やAED研修など実務に直結する内容の研修を行っています。	
3	a	合理的配慮の実施件数は、目標値に対し4割増、前年度実績に対し5割以上増の実績でした。今後も利用者個々の特性や状況に応じた適切な対応を心がけていきます。日比谷では、車いす、障害者の利用者が増え、昇降機操作対応の増加が顕著でした。利用環境のメンテナンスにも配慮していきます。	
4	a	レストラン、ショップ&カフェ来客数は前年度から9,000名弱上回り、目標を大きく超えることができました。令和元年度からは80%程度の回復です。カフェはランチタイムの混雑時はカウンターを2名体制にするなど、利用者への利便性向上にも配慮しています。	
5	a	必須である防災・避難訓練は着実に実施しました。視察については、千代田図書館は公的機関以外の市民グループからの視察依頼も増える傾向にあり、日比谷図書文化館は海外からの視察依頼が増えています。また、区内大学からの実習生は千代田、日比谷で6名を受け入れました。日比谷では、基本的な業務以外に他部署や他施設とも連携するなど、この立地を活かして日比谷ならではの体験をしていただきました。	
評価項目全体の自己評価		図書館運営評価の土台となる入館者数は堅調な増加傾向にあります。仮施設の四番町は別として、回復が遅れ気味であった千代田が一番の回復を見せたことに安堵しています。また、それ以外の外部要因が大きいだろうと思われる項目すべてで目標を上回る実績を見ることができました。千代田区立図書館全体としては、ともすれば閉鎖的になりやすいと図書館運営が、徐々に外に向かって開き始めている感触があります。この先は職員スキルが大きく影響するため、定型の研修はもちろんですが、広い視野を持って業務を行える環境づくりに励みたいと考えています。	

〈評議会委員の評価〉	a
▶職員対応満足度の高さは素晴らしい。研修等を通じて、研鑽を積まれていることの表れである。 基本的なこととはいえ、防災、合理的配慮対応等、多岐にわたる事柄への備えは大変であるが、図書館への信頼を支える大切な部分なので、引き続き維持してもらいたい。 また、昨今では、カスタマーハラスメント対応も求められていて、広く開かれたサービスゆえのリスクも高いので、スタッフの安全安心のためにも、専門研修の実施をお願いしたい。 ▶入館者数・避難訓練などは、管理運営においては十分な実績である。 ▶「管理運営等」については、入館者数が回復傾向を示し、新規登録者数も大幅に増加していることが明確な成果として挙げられる。特に、前年度比で顕著な回復を遂げた館もあり、利用者の信頼を再び取り戻しつつあることは大変意義深い。職員研修の実施も充実していて、職員対応満足度が高水準で維持されている点は、日々の丁寧な対応の積み重ねによるものと評価できる。 四番町図書館では来館者数の減少が見られたが、これは仮施設や外部要因の影響が大きく、適切に対応が進められていることから、大きな問題ではない。さらに、合理的配慮の実施件数が増加していることは、多様な利用者への配慮が確実に進んでいることを示していて、区民に開かれた図書館の姿勢が表れている。今後も人材育成と利用環境の整備を持続的に進めることで、管理運営の安定性がより一層高まることを期待する。 ▶入館者数の目標達成率が90%を超えているが、目標値は下回っている状況なので、入館者増に向けた活動が必要である。 目標値についても、令和元年から比べると大きく下がっていて、大きな目標としてどこまで入館者数を上げていくのかを検討する必要がある。 ▶インターネットで情報を得ることが当たり前の世の中になってきた今こそ、正しい情報を得るためのスキルがますます必要となってくる。これからの図書館は、ただ蔵書数を増やし、その貸出数を延ばしたり、本の探し方を手助けしたりするだけではなく、住民の『知の筋力アップ』のためのトレーニングの場としての役割が求められてくる。そのためには図書館職員のスキルアップとコミュニケーション力がますます重要になってくる。日本の「文化の中心地」である千代田区の図書館だからこそ、全国の範になる先進的な取り組みを期待している。 ▶適切な管理運営が行われている。特に、職員対応満足度の高さは、職員の皆さんの丁寧かつ真摯な仕事ぶりに対する利用者からの評価であり、敬意を表する。このような管理運営の継続に期待している。 ▶各館の「入場者数」が、目標値を下回った館でも、昨年度の実績をほぼ上回っている（四番町図書館はわずかな減少）点、新規登録者数が目標値を大きく上回った点を大いに評価したい。また、（海外を含めた）視察対応件数も増えている点も今年度の実績の特徴の一つである。このような結果となったことは、職員の皆さんの（職員研修への積極的な参加にみられるように）接遇に対する高い意識が職員対応満足度に反映されたからである。入館者数が増えればそれだけ利用者に対応する機会、また、合理的配慮が必要な機会も増加すると思われる。幅広い年齢層が利用することに加え、多種多様なニーズを持った利用への対応は日々大変であるが、引き続き丁寧な対応を期待している。 ▶4.日比谷が入館者数を伸ばしている要因として、利用環境を整えているからと推測する。日比谷野外音楽堂の開催イベントに合わせて来場者が増えるという説明があったので、リピーターも一定数いると考えると、皆さん満足して利用しているのではないかと評価できる。 5.海外からの視察を逆に参考にしながら、相互視察やお互いの情報交換によって、より良い図書館運営につなげてもらいたい。	

令和6年度 図書館職員の接遇に関するモニタリング調査 概要

■目的

図書館職員の接遇について、専門的な視点からの評価を導入することで、図書館職員の接遇スキルのさらなる向上と、図書館での利用者トラブルの発生防止を図る。

■業務内容・実施場所

千代田区立図書館5館で、職員の接遇について覆面でのモニタリング調査を実施した。
(千代田図書館、四番町図書館、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館、日比谷図書館文化館)

■対象者

千代田区立図書館職員

■実施日時

- ・第1回モニタリング調査 令和6年9月17日(火)・18日(水)・20日(金)
- ・モニタリング調査結果報告会 令和6年10月24日(木)
(調査会社より、第1回調査の現状確認と今後に向けてのアドバイスを受けた。)
- ・第2回モニタリング調査 令和7年1月19日(日)・21日(火)・22日(水)

■チェック項目

千代田区サービススタンダード チェックリスト

■総合所感(第2回報告書より抜粋)

- 千代田区の各図書館の特徴を活かした接遇により、「図書館スタッフは親切」「居心地が良い」という印象を作っています。今後もスタッフによる接遇スキルのばらつきをなくし、統一していくことで千代田区の図書館全体の評価が上がると考えます。
- 課題と改善のアドバイスは一部のスタッフ向けではありますが、第1回モニタリングでは非常に良い評価を受けていたスタッフが、今回は残念な結果を出しているケースがありました。利用者の視点に立った対応の必要性を理解していないのが原因であると感じます。

■評価できる点

- ご要望に応えようとする熱心な対応と提案、迅速性が強み
- 第1回モニタリングと比較すると提案力は向上しています。利用者の要望には、何とかして応えようという熱意と親身さが伝わります。仮に目的が達成できなくても「また、利用したい」という気持ちが生じます。
- 動作は迅速で、スタッフ同士の連携が良いのも強みです。今回は全館、混雑時を選んでモニタリングしました。すべての図書館で、窓口を利用者を並ばせて待たせることがないようにする工夫や配慮、特に気配りが感じられました。

■課題と改善のためのアドバイス

➤ 身だしなみは細部まで整え、一人ひとり気を抜くことなく継続したい

- 図書館スタッフとして配慮したい清潔感ある身だしなみのポイントは、いくつか改善の余地があります。全体的には整ってきていますので、意識を持続し、レベルを下げないようにしてください。

➤ 話をしっかり聴き取り、正確な情報を提供したい

- 状況に応じた説明力の強化が求められます。まずは決めつけずに状況をよく聴き取り、確認・復唱をしながら話を集約し、利用者の理解しやすい言葉で説明することです。
- ご要望に応じられない時、物を依頼する時などは、クッション言葉「恐れ入りますが」「申し訳ありませんが」などを活用するとより丁寧で柔らかな印象となります。

➤ タイミングの良いアイコンタクトと感じの良い接遇動作を心がける

- 全員ではありませんが、利用者との応対中にほとんど目を合わせないスタッフがいます。理解度を確認するためにも、適切なアイコンタクトは、双方の会話の齟齬を防ぐために有効です。
- 資料の場所や化粧室を案内する際の指し示しが雑なため、方向が伝わりにくいと感じる時や、物を渡す際にも片手で雑に渡す場面が見受けられました。指し示す際や物を受け渡す際は指を揃え、利用者の立場に立ってわかりやすく感じの良い動作を心がけてください。

サービススタンダード チェックリスト

スタンダード		評価項目	第1回	第2回
1	私は、常に目配りと心配りをし、こちらから先に声をかけます。	カウンターの近くにお客様が来たら、すぐに気づいている		
2		アイコンタクトと笑顔の挨拶をしている		
3		お客様より先に用件を何う一言を言っている		
4		速やかに案内をしている		
5		誘導時に、お客様への気遣いをしている		
合計 平均				
6	私は、お客様のご要望には迅速に対応します。	機敏な動作で対応し、迅速に行動している		
7		お待たせする時は、お客様の許可を得ている		
8		お客様に待ち時間の目安を伝えている		
9		次に予測される事を先取りして伝え、全体がスムーズに進む手伝いをしている		
10		お客様を持たせている意識を持った対応をしている		
合計 平均				
11	私は、TPOに応じた笑顔と立ち居振る舞いでお客様に対応します。	TPOに応じた笑顔で対応している		
12		アイコンタクトをとりながら対応している		
13		指を揃え、ご案内する方向を指し示している		
14		接客中の姿勢・動作・言葉遣いは適切で信頼感を与えるものである		
15		書類を両手で受け渡している		
16		アイコンタクトと笑顔で結めの言葉を伝えている		
合計 平均				
17	私はお客様の立場に立ってわかりやすい説明をします。	お客様に合わせて話すスピードや言葉を選んでいる		
18		専門用語を使わず、わかりやすい説明をしている		
19		図書館内を案内する時、目的地をわかりやすく案内している		
20		エレベーターの利用方法を説明している		
21		お客様からの質問に親身に答えている		
22		お客様に事情を説明する際は、前向きな言葉で説明している		
23		必要に応じて、次回来場する際の窓口や担当者伝えている		
合計 平均				
24	私は、お客様のご要望や問題を自分のものとして受け止めます。	お客様の話を共感して聴いている		
25		お客様の要望内容を最後まで聴いている		
26		お客様の要望を確認するための質問を行っている		
27		お客様と一緒に、与えられた状況の中で出来る限りの可能性を考えている		
28		感情的な対応をせずに話している		
合計 平均				
29	私は、他の職員へ引き継ぐ時には、お客様が繰り返し説明する必要がないよう、明確に内容を伝えます。	他の職員へ引き継ぐ時はお客様に許可を得ている		
30		お客様へ引き継ぐ理由を説明している		
31		他の職員へ引き継ぐ内容を伝え、お客様が繰り返しなくていいように配慮をしている		
32		移動先もしくはお待ちいただく場所を具体的に伝えている		
合計 平均				
33	私は、お客様にとって最適な解決策を提案します。	お客様の事情を考慮した上で根拠よく説明をしている		
34		マイナスの要素をプラスの言葉に変えて説明している		
35		お客様にとって、最適な提案をしている		
36		お客様が納得をして席を離れている		
合計 平均				
37	みだしなみ	色・サイズ感・素材等に注意し、華美でない、清潔感のある服装をしている		
38		着崩したり、ボタンを緩めたりせず、職場環境や職務内容に応じた着用をしている		
39		髪型が整っている		
40		髪は剃り残しがない状態になっている		
41		自然な化粧をしている		
42		必要以上のアクセサリーや香水をつけていない状態になっている		
43		足元まで身だしなみが整っている		
合計 平均				

※特定職員の言動に基づいて評価を行った項目については、項番横に●印をつけてください。

千代田区図書館評議会 開催日程

令和6年度

◆第1回 令和6年7月31日（水） 13:30～15:53

1. 令和5年度千代田区立図書館運営の評価について

千代田図書館の施設見学会を実施した。評議会では「千代田区図書館評議会図書館評価シート」に基づき、令和5年度の区立図書館運営に対する実績評価、指定管理者の自己評価について、ゼネラルマネージャー・千代田図書館長・日比谷図書文化館副館長より報告が行われた。その後、図書館評価シートの各コンセプトの自己評価等について質疑応答を行った。

◆第2回 令和6年11月7日（木） 14:00～15:00

1. 令和5年度千代田区立図書館運営の評価について

「千代田区図書館評議会図書館評価シート」について、評議会委員の評価および総合評価を決定した。

◆第3回 令和7年1月30日（木） 14:00～15:03

1. 令和6年度千代田区立図書館運営の評価について

令和6年度図書館運営評価の実施にあたり、評価基準の確認、図書館評価シートの改訂案について、委員へ意見等を求めた。

令和7年度

◆第1回 令和7年7月29日（火） 13:30～15:53

1. 令和6年度千代田区立図書館運営の評価について

千代田図書館の施設見学会を実施した。評議会では「千代田区図書館評議会図書館評価シート」に基づき、令和5年度の区立図書館運営に対する実績評価、指定管理者の自己評価について、ゼネラルマネージャー・千代田図書館長・日比谷図書文化館副館長より報告が行われた。その後、図書館評価シートの各コンセプトの自己評価等について質疑応答を行った。

◆第2回 令和7年11月10日（月） 10:00～11:03

1. 令和6年度千代田区立図書館運営の評価について

「千代田区図書館評議会図書館評価シート」について、評議会委員の評価および総合評価を決定した。

◆第3回 令和8年2月3日（火） 10:30～11:26

1. 千代田区図書館評議会の見直しについて

図書館の運営実績の評価を中心に行ってきた図書館評議会について、図書館運営の効率化やサービスの向上、読書活動の推進をはじめとする広範な課題に対応していくため、「図書館法に基づく図書館協議会」への移行について、委員の意見を伺った。

第10期 千代田区図書館評議会委員名簿

任期：委嘱の日から令和9年3月31日まで

(敬称略 順不同)

	氏 名	所 属
図書館情報学 専門家	野口 武悟	専修大学 文学部 教授 評議会会長
区内大学関係者	鴫田 拓哉	共立女子大学 文芸学部 教授 評議会副会長
図書館関係者	加藤 恵美	法政大学 図書館事務部 市ヶ谷事務課 課長
出版・流通事業 関係者	高山 剛一	高山本店 代表
経済団体関係者	佐野 幸治	学校法人佐野学園 理事 法人本部長
生涯学習・教育 関係者	小峯 惣太	千代田区教育委員会 子ども部 指導課 指導主事
公募区民	宮武 邦雄	
	今 菜都美	

千代田区図書館評議会設置要綱

平成 19 年 6 月 22 日 19 千区文発第 114 号

（目 的）

第 1 条 千代田区立図書館の基本運営方針及び運営実績について区民、有識者、関係者等から広範に意見を聴取し、運営改善の参考に資することを目的として千代田区図書館評議会（以下「評議会」という。）を設置する。

（検討事項）

第 2 条 評議会は、次に掲げる事項について検討する。

- （１）千代田区立図書館の運営方針及び運営実績の評価に関すること。
- （２）その他千代田区立図書館の運営改善について検討を要すること。

（構 成）

第 3 条 評議会は委員 10 名以内で構成する。

（委員の委嘱）

第 4 条 評議会の委員は次の各号に掲げる者のうちから、千代田区教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

- （１）図書館情報学専門家
- （２）図書館関係者
- （３）出版・流通事業関係者
- （４）経済団体関係者
- （５）区内大学関係者
- （６）生涯学習・教育関係者
- （７）公募による区民

（任 期）

第 5 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、教育委員会が必要と認める場合は、再任を妨げない。

- 2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長等）

第 6 条 評議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により決定する。

- 2 会長は、会を代表し、会務を総括する。
- 3 会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。

(開 催)

第7条 評議会は年2回の定期会及び必要に応じ随時開催する臨時会から成る。

(招集等)

第8条 評議会は会長が招集する。

2 会長は、必要に応じ委員以外の者に対し評議会への出席を求めることができる。

(専門部会)

第9条 評議会は、専門的観点から特定事項を審議するため、調査機関として専門部会を置くことができる。

2 専門部会の委員は5名以内とし、次項の部会長を除き、評議会の委員以外の者から教育委員会が委嘱することができる。

3 専門部会に部会長を置き、評議会の委員の中から会長が指名する。

4 部会長は、会務を総括する。

5 専門部会は部会長が召集する。この場合において部会長は、必要に応じ専門部会の委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第10条 評議会の事務局は、文化振興課に置く。

附則

この要綱は、平成19年6月22日から施行する。(19千区文発第114号)

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。(21千区図文発第54号)

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。(23千区図文発第509号)

この要綱は、令和5年5月24日から施行する。(5千地文振発第92号)